

勢理毘賣の歌などに見え、建内宿禰の歌には、天皇をしも那賀美古子汝之御と申せり、

〔古事記上〕其神之嫡后須勢理毘賣命、甚爲嫉妬、故其日子遲神和備氏、以音自出雲將上坐倭國而東

装立時、片御手者繫御馬之鞍、片御足蹈入其御鎧而歌曰、中比氣登理能和賀比氣伊那婆、那迦士

登波、那波伊布登母、中爾其后、取大御酒杯、立依指舉而歌曰、中阿波母與賣、邇斯阿禮婆、那遠岐

氏、遠波那志、那遠岐氏、都麻波那斯、下

〔古事記下〕亦一時、天皇爲將、豐樂而幸行日女島之時、於其島雁生卵、爾召建内宿禰命、以歌問雁生

卵之狀、中於是建内宿禰、以歌語白、中如此白而、被給御琴、歌曰、那賀美古夜、都毘邇斯良牟登、加

理波古牟良斯、

〔日本書紀九〕二年二月己酉、立忍坂大中姬爲皇后、中初皇后隨母在家、獨遊苑中、時鬪鷄國造從

傍徑行之、乘馬而莅籬、謂皇后嘲之曰、能作園乎、汝者也、云那鼻苦也○下略

〔新撰字鏡〕你、同、女履反、汝也、伊万志、又支三、

〔倭訓栞前編三〕いまし、日本紀に、爾汝乃等をよめり、坐すの義、西土にて座下といふ如し、なんぢ

の古語なり、新撰字鏡に你もよめり、

〔日本書紀神代〕一書曰、天神謂伊弉諾尊伊弉冉尊曰、有豐葦原千五百秋瑞穗之地、宜汝往循之、

〔萬葉集十〕相聞

駿河能宇美、於思敵爾、於布流波麻都豆夜、伊麻思乎多能美、波播爾多我比奴、中

右五首、駿河國歌、

〔倭訓栞前編三十〕みまし、神代紀に御席をよめり、元正紀に美麻斯乃父止坐天皇、又みまし親王、

又みまし王、光仁紀にみまし大臣といへるは、いましに同じ、神代紀の汝皆みましとよむべし、す

なはち御席の義也、